科目名	健康生活看護学実習(老年)1			ナンバリング	PEN542	授業形態	実習
対象学年	2 年	開講時期	後期集中	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	橋本知子	担当教員	鈴木直子、他				

授業の概要	通所リハビリテーションにおける看護職や介護職員らによる支援を実際に体験することで、その役割について理解を深めるとともに、看護実践能力を身につける。実習においては、高齢者とのコミュニケーションを通じて、高齢者特有の身体的な機能低下などに対する理解を深める。また、看護職、介護職員および他職種間の連携のあり方や必要な看護技術について学ぶとともに、チームケアや継続看護の実際に触れることで、病院・施設・在宅の連携のあり方を学ぶ。						
到達目標	1. 通所リハビリテーションの機能と役割の特徴について説明することができる。 2. コミュニケーション技術を用い、円滑な人間関係を築いた上で、地域で生活する高齢者の生きがいや生活史、価値観を理解することができる。 3. 利用者およびその家族のアセスメントに基づいたケアプランやリハビリテーションの実際を理解することができる。 4. 保健・医療・福祉体制の実際を理解し、医療チーム内における看護の役割について考察することができる。 5. 高齢者への関心を高め、高齢者を個人として尊重する態度を身につけることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	事前に実施される学内オリエンテーションに必ず参加し、事前学習を含めしっかりと準備をした上で実習に臨むこと。						
	【看護学部看護学科のディプローマポリシー】						
	O 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。						
	O 2. EBN(Evidence Based Nursing:根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。						
ディプローマポリシーとの	〇 3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。						
関連	O 4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。						
	O 5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。						

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
「健康生活看護学実習(老年)1ルーブリック」を参照	「健康生活看護学実習(老年)1ルーブリック」を参照

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合
実習態度	0	0	0	0	0		50%
実習記録・レポート	0	0	0	0	0		50%

課題、評価のフィードバック 1. 学内オリエンエンテ―ションについては別途指示をする。 2. 評価は学生からの要請があればいつでも開示できるよう準備をする。

	回次	テーマ	授業内容	備考		
	第1回	施設実習	施設オリエンテーション、施設見学			
	第2回	施設実習	施設スタッフに同行し、援助を見学または一部実施する。 受持ち制をとらず、多くの利用者とコミュニケーションを取る。 適宜、学生カンファレンスを実施する。			
	第3回	施設実習	施設スタッフに同行し、援助を見学または一部実施する。 受持ち制をとらず、多くの利用者とコミュニケーションを取る。 適宜、学生カンファレンスを実施する。			
	第4回	施設実習	施設スタッフに同行し、援助を見学または一部実施する。 受持ち制をとらず、多くの利用者とコミュニケーションを取る。 最終カンファレンスを実施する。			
	第5回	実習のまとめ	記録の整理、個人面談、全体発表による学びの共有			
	第6回					
	第7回					
授業計画	第8回					
	第9回					
	第10回					
	第11回					
	第12回					
	第13回					
	第14回					
	第15回					
	試験	試験は実施しない				
授業の進め方		実習要項に沿って実習を進める。				
授業外学習の指示		実習要項を熟読した上で、事前に実施される学内オリエンテーションに必ず参加し、指示された事前課題に取り組むこと(120分)。				
		(授業外学習時間: 毎週 分)				

教科書	ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版) ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際(メディカ出版)
参考書	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院)
参考URLなど	
その他	実習で使用する記録用紙は事前にmanab@IMUから各自ダウンロードし、印刷して使用すること。

## 健康生活看護学実習(老年)1 ルーブリック

ZII√≑ □ +퓺			評価基準						
	到達目標		5 (理想的な到達レベル) 4	3 (標準的な到達レベル)	2 1				
1)	通所リハビリテーションの機能を必要している。	(	通所リハビリテーションの機能について具体的に 説明することができる	通所リハビリテーションの機能について説明することができる	通所リハビリテーションの機能について説明する ことができない				
	能と役割の特徴について説明することができる。			説明することができる	通所リハビリテーションが果たす役割について説 明することができない				
		3	個々の利用者の状態に合わせた効果的なコミュニケーション技術を用いて、利用者とコミュニケーションを取ることができる	コミュニケーション技術を用いて、利用者とコ ミュニケーションを取ることができる	コミュニケーション技術を用いて、利用者とコミュニケーションを取ることができない				
		4	利用者と円滑な人間関係を築くことができる	利用者と人間関係を築くことができる	利用者と人間関係を築くことができない				
2)	コミュニケーション技術を用い、円滑な人間関係を築いた 上で、地域で生活する高齢者	5	利用者の1日の過ごし方を理解し、個々の利用者がもつ思いに気づくことができる	利用者の1日の過ごし方を理解することができる	利用者の1日の過ごし方を理解することができない				
	の生きがいや生活史、価値観を理解することができる。	6	地域で生活する高齢者の生きがいを理解し、その個別性・多様性に気づくことができる	地域で生活する高齢者の生きがいを理解することができる	地域で生活する高齢者の生きがいを理解することができない				
				地域で生活する高齢者の生活史を理解することができる	地域で生活する高齢者の生活史を理解することができない				
		8	地域で生活する高齢者の価値観を理解し、その個別性・多様性に気づくことができる	地域で生活する高齢者の価値観を理解することができる	地域で生活する高齢者の価値観を理解することができない				
			利用者およびその家族がどのようにアセスメントされているか具体的に説明することができる	利用者およびその家族がどのようにアセスメントされているか説明することができる	利用者およびその家族がどのようにアセスメントされているか説明することができない				
		/ 1 1 1 1	利用者にとっての家族の役割を説明することができ、家族の思いに気づくことができる	利用者にとっての家族の役割を説明することができる	利用者にとっての家族の役割を説明することができない				
3)			アセスメントがどのようにケアプランに活かされているか具体的に説明することができる	アセスメントがどのようにケアプランに活かされているか説明することができる	アセスメントがどのようにケアプランに活かされているか説明することができない				
	スメントに基づいたケアプランやリハビリテーションの実際を理解することができる。	(12)	リハビリテーションがケアプランに基づいてどのように実施されているか具体的に説明することができる	のように実施されているか説明することができる	リハビリテーションがケアプランに基づいてどのように実施されているか説明することができない				
		(13)	リハビリテーションにおいて安全安楽がどのよう に配慮されているか具体的に説明することができ る	リハビリテーションにおいて安全安楽がどのように配慮されているか説明することができる	リハビリテーションにおいて安全安楽がどのように配慮されているか説明することができない				
				利用者の日常生活における健康上の問題をとらえることができる	利用者の日常生活における健康上の問題をとらえることができない				
		(13)	地域で生活する高齢者を支える社会資源について具体的に説明することができる	地域で生活する高齢者を支える社会資源につい て説明することができる	地域で生活する高齢者を支える社会資源について 説明することができない				
4)	保健・医療・福祉体制の実際を理解し、医療チーム内における看護の役割について考察することができる。	(16)	保健・医療・福祉体制における関係職種とその役割、連携について具体的に説明することができる		保健・医療・福祉体制における関係職種とその役割、連携について説明することができない				
				することができる	医療チーム内における看護の役割について考察することができない				
		(18)	高齢者への関心を高め、社会資源を活用して自立 した生活を送ろうとする多様な高齢者の存在に気 づくことができる	自立した高齢者の生活を知ることにより、高齢 者への関心を高めることができる	高齢者への関心を高めることができない				
5)	高齢者への関心を高め、高齢者を個人として尊重する態度を身につけることができる。	(19)	高齢者が様々な経験に基づいた強みをもつ存在であることを理解し、人生の先輩として尊重する態度で接することができる	人生の先輩として尊重する態度で高齢者に接す ることができる	人生の先輩として尊重する態度で高齢者に接することができない				
		20	実習を振り返り、自己の老年観を事例を通して具体的に考察することができる	実習を振り返り、自己の老年観を考察することができる	実習を振り返り、自己の老年観を考察することができない				